

## 第 1 回新水道ビジョン推進に関する地域懇談会（盛岡）の結果報告

日 時 平成 25 年 11 月 25 日（月） 13 : 00 ~ 16 : 30

場 所 いわて県民情報交流センター（アイーナ）804 会議室  
（岩手県盛岡市盛岡駅西通 1 丁目 7 番 1 号）

参加者 ゲストスピーカー：3 名  
北海道・東北地方の水道行政部局及び水道事業者：64 名



## 1 開会

## 2 主催者挨拶

厚生労働省健康局水道課水道計画指導室長 福田 宏之

## 3 新水道ビジョンの概要説明〔資料1〕

厚生労働省健康局水道課技術係長 水野 孝之

## 4 先進事例の紹介

### (1) 北海道における水道事業等の広域化など多様な運営形態の推進について〔資料2-1〕

#### ▼ 発表者

山田 博 様（北海道環境生活部環境局環境推進課水道グループ主幹（水道計画））

#### ▼ 主な質疑

##### ○ 道が主体的に地域別会議を開催している理由や道の役割は何か。

- ・ 道では、水道事業体の広域化など多様な運営形態を進めるため地域別会議を開催し、小規模の事業体も出席し易いよう地域に出掛けていく形で意見交換や情報共有を行っている。まずは近隣水道事業体の状況を知ることから始めていただき、出来ることを一つずつやりながら広域化など多様な運営形態の取り組みを深めていく方法を試みている。
- ・ 北海道水道ビジョンにおいて、道の役割として、水道事業体間・民間事業者との連携のコーディネート役を担うこととしている。

##### ○ 水道整備基本構想とはどのようなものか。

- ・ 北海道水道ビジョンの地域編として、水道事業体が計画的に事業に取り組むための計画として水道整備基本構想をH25年3月に改定した。これは道が水道事業体の意見を聞きながらとりまとめたものであり、これに基づき水道事業体において広域化等の取り組みを進めていただくもの。

### (2) 圏域を越えた発展的広域化推進〔資料2-2〕

#### ▼ 発表者

榎本 善光 様（八戸圏域水道企業団副企業長）

#### ▼ 主な質疑

##### ○ 北奥羽地区水道協議会について、県の水道行政が果たした役割も含め、経緯等を教えて頂きたい。

- ・ 水道事業の安定的な運営について、八戸市だけでなく周辺地域も含めてやっていかなければという認識を持っている。北奥羽地区水道協議会は、二戸市、十和田市、三沢市といった中核となる方々との対話の中で広域的に連携していこうということになった。地域で自発的に取り組んでおり、県の水道行政には事後の報告という形になっている。

(3) 「新水道ビジョン」で何故連携が必要なのか！～連携から考える持続的な水道事業～  
[資料 2-3]

▼ 発表者

吉岡 律司 様（岩手県矢巾町上下水道課主査）

▼ 主な質疑

- 水道サポーターの勉強会などを通して住民が知識を得ると、町会議員への意見が活発になることが考えられるが、町会議員の方々の反応はどのようなものか。
  - ・ 住民の方が水道について勉強していることを知り、町会議員の中には勉強会に参加して頂くようになった方もいらっしゃる。
- 矢巾町は水道だけでなく他の行政部局もこうした取り組みを行っているのか。
  - ・ 水道だけがやっている状況だが、首長からは積極的にやるよう言われている。矢巾町はコミュニティ条例を全国に先駆けて作ったが、今の町長が当時の担当者であったこともあり、こうした取り組みについて理解を持っている。

5 懇談会（グループ形式）

グループ 1

山田 博 様（北海道環境生活部環境局環境推進課水道グループ主幹（水道計画））を囲んで、「官民連携も視野に入れた広域的連携」をテーマにグループ討議を行った。

- 各事業体の現状について、以下の話題提供があった。
  - ・ 複数の簡易水道と小規模水道の日常点検や料金徴収等を直営の水道職員が 1 名で行っている。休日深夜に異常が発生しても 1 名で対応しなければならないなど、マンパワーが足りていない。
  - ・ 簡易水道や小規模水道は、老朽化している施設や管路を更新しないと統合してもらえないのではと考えている。
  - ・ 簡易水道の委託を検討しているが、財政的な面で実現は困難である。
  - ・ 用水供給から受水しているが、責任水量制により必要のない水量分まで受水料金を支払っている。用水供給と受水団体をひとまとめにして広域化を検討するべきではないか。
- 官民連携・広域的連携の推進における問題点について、以下の意見が述べられた。
  - ・ 財政面や料金面の格差があるため、広域化を進めるところまで話しが進展しない。
  - ・ 近隣の水道事業に対して、広域化を検討したいので経営状態を教えてほしいとは言えない。
  - ・ 勉強会や研究会などに取り組んでいるが、水道担当職員が 2～3 年で変わるため、話がまとまらない。
  - ・ 大規模事業者としては、例えば広域化によって水道料金を上げる必要が生じる場合など、現在の給水対象区域の需要者が不利益となるような広域化に対して説明責任が果たせない。
  - ・ 官民連携については、給水停止の判断や工事の発注など、民間に任せることに不安がある業務もあるのではないか。
- 官民連携・広域的連携を推進する上で必要な要素として、以下の意見が述べられた。
  - ・ 首長や管理者など、経営責任を有する方に働きかける必要がある。

- ・ リーダーシップを有する旗振り役が必要であり、都道府県や地域の主要な事業者がその役を担うべきではないか。
  - ・ まずは検討を行う場を提供することが重要である。
  - ・ 広域化を実現して企業団を構成し、プロパーの水道職員を増やすことで意識の向上を図ることが必要ではないか。
- 道県・事業者の取り組み状況について、以下の話題提供があった。
- ・ 事業者によって水源水量に過不足が生じており、このことも広域化を必要とする一要因となっている。
  - ・ 道では地域別会議の中で民間事業者との連携の機会を設けている。
  - ・ アセットマネジメントの実施は、水道事業の現状を見つめ直す良い機会である。
  - ・ 簡易支援ツールが公開されたことで、小規模な事業者でもアセットマネジメントを実施するようになってきている。



## グループ2

榎本 善光 様（八戸圏域水道企業団副企業長）を囲んで、「圏域を超えた発展的広域化推進」をテーマにグループ討議を行った。

- 発展的広域化を推進している事業体から、その推進に必要な要素として以下の意見が述べられた。
  - ・ 発展的広域化とは、地域の実情に応じて4つの形態（施設の共同化→管理の一体化→経営の一体化→事業統合）を段階的に進め、その中で最適化を図ることと認識している。
  - ・ このように、広域化に至るまでのスピード感は地域によって様々であるが、一つのきっかけとして、管路や施設の更新時期において、施設の統廃合やダウンサイジングを検討することが良い機会である。近隣事業体との間で、常日頃から更新計画について話し合いの場を設けることが必要ではないか。
  - ・ 人口減少社会の中で今後とも安定した水道事業を運営していくためには、圏域を越えた発展的広域化の必要性や重要性を首長、議員、住民に知ってもらう必要がある。そのためには、アセットマネジメントを実施して将来の不安要素を明らかにすることや、様々な機会を通じて水道事業の問題点を取り上げていただくよう働きかけることが必要ではないか。
  - ・ 発展的広域化の実現においては、都道府県が主導的な役割を担うことが重要と考える。
  - ・ 水道は「集中→分散」であるのに対して、下水道は「分散→集中」という特性があるため、下水道は広域化しにくいシステムと考えられる。このため、まずは受益者負担原則である水道事業が先行的に広域化を進め、将来的には下水道と統合して発展的広域化を推進するといった視点が必要ではないか。
- 上記の意見交換により、特に水道事業体のアセットマネジメント実施の重要性や、発展的広域化の推進において都道府県が果たすべき役割の重要性について認識の共有を図った。
- 発展的広域化の推進についての要望
  - ・ 発展的広域化の推進に資するための手引きや指針等の策定
  - ・ ハード面だけでなくソフト面に対する国の支援・補助
  - ・ 安定した事業運営を行っている大規模事業体から中小規模事業体への財源の融通といった仕組みの構築





### グループ3

吉岡 律司 様（岩手県矢巾町上下水道課主査）を囲んで、「住民との連携」をテーマにグループ討議を行った。

- 放射性物質による水道水の汚染事故を受けて、需要者への広報が難しくなっているという認識のもと、その方法やあり方について以下の話題提供があった。
  - ・ 需要者への意識調査を行ったところ、約 4 割の方が水道水を直接飲まないと回答するようになった。広報の仕方について、何か良いアドバイスを頂きたい。
  - ・ 放射性物質のレベルが国の基準値を下回っていることについて、広報紙やホームページを通じて周知徹底を図っている。
  - ・ 放射性物質が国の基準値を下回り、震災前の水準に戻ったにも関わらず、値を検出していること自体を心配されており、需要者の関心は震災の前後で大きく変化している。
  - ・ 情報の送り手と受け手の間でミスマッチが発生しているかもしれない。特にサイレントマジョリティへの方法論を再検討する必要がある。
- 水道職員が減少する状況下での住民とのコミュニケーションの方法について、以下の意見交換が行われた。
  - ・ 職員数の削減により手が回らなくなってきたため、団体、会社、OB 及び住民の方にも「ブースター制度」を通じて応急給水の訓練等に参加して頂いている。
  - ・ 訓練などに参加し連携が深まってくると、水道に対する需要者の関心や行動がこれまでと変わってくる。

- 関係する業者に対して災害時の対応をお願いする場合の報酬のあり方について、以下の意見交換が行われた。
  - ・ 災害時の協定を締結している業者には報酬を支払っている。また、上記のブースター制度の方にも支払うことを規程に定めている。
  - ・ 保険には加入しているが、基本的にはボランティアにより協力して頂いている。
  - ・ 無償だと形骸化する場合もあるので、お金を支払ってでも素晴らしい対応をして頂くのは良いことだと思う。
  - ・ ワークショップや住民参加などでは参加人数が限られるため、その結果をサイレントマジョリティの方に伝えること、どのように連携したのかフィードバックすることが大事になる。
  - ・ 意識の高い住民を増やしていくため、プラーヌクスツェレという手法を取り入れ、土曜日に有償で勉強会の開催を検討している。
  
- 住民との連携に関する新しい取り組みを行う際のポイントについて、以下の話題提供があった。
  - ・ 忙しい状況であっても職員が集まって議論する時間を持つことが大事である。自由に討論すると良い発想は出にくいため、例えば日常点検や財政など、テーマを絞って議論すると良い発想が生まれやすい。
  - ・ 矢巾町のサポーター制度を見学して良い刺激を受けた。上記のブースター制度と組み合わせることによって、組織内部での意志決定は順調に進んだ。



## 6 主催者挨拶

厚生労働省健康局水道課水道計画指導室長 福田 宏之

## 7 閉会

### 配付資料

資料 1 新水道ビジョンの概要

資料 2 先進事例の紹介

資料 2-1 北海道における水道事業等の広域化など多様な運営形態の推進について

資料 2-2 圏域を越えた発展的広域化推進

資料 2-3 「新水道ビジョン」で何故連携が必要なのか！

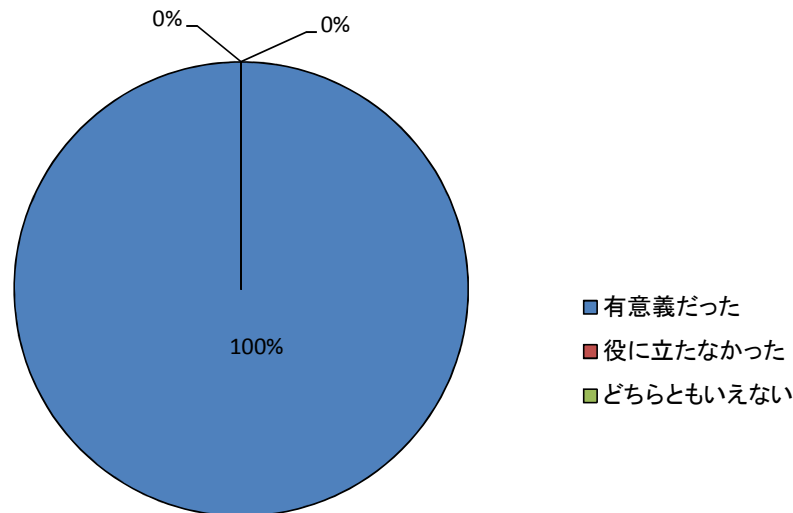
～連携から考える持続的な水道事業～



## 参加者アンケート（回答数 27）

### 1 ご講演（先進事例の紹介）について

#### 先進事例の紹介は有意義であったか？

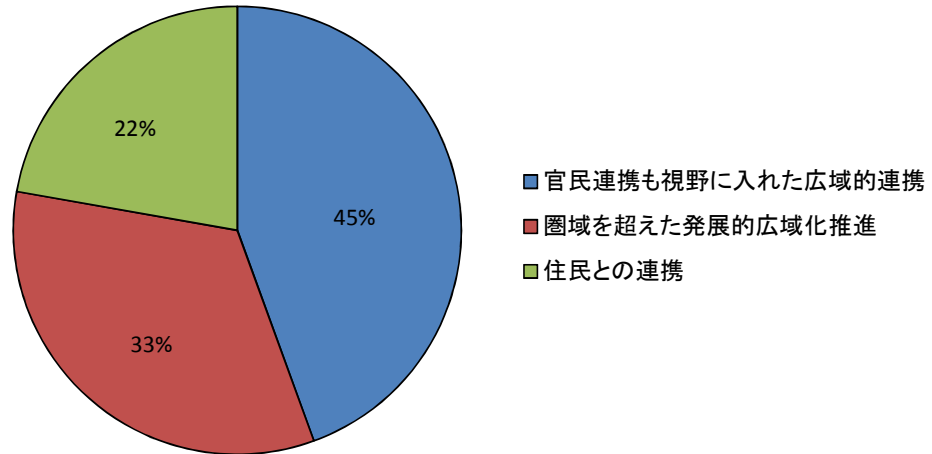


#### ▼主要な意見

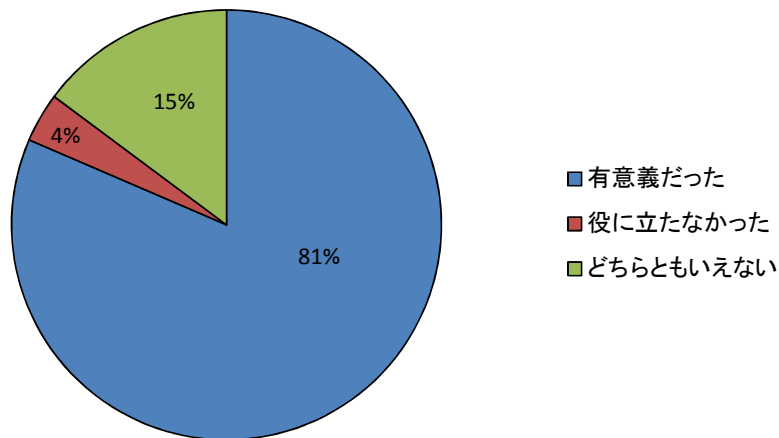
- 都道府県版の水道ビジョンを作成した北海道の事例がとても興味深く、都道府県によって、水道事業に対する姿勢の温度差があると感じた。今後、水道の広域化を進めるためには、県が積極的に関与しないと、広域化はもとより、現在行っている事業の問題点に気づかずにいるのではないかと思う。
- 他の事業体・行政等の取り組みや考え方等を伺えることができ、大変参考になった。
- 道が事業体間の意見交換の場をコーディネートする「地域別会議」の取り組みは、新水道ビジョンで求められている都道府県の役割の好例として参考になった。
- 今後の水道経営に住民の理解が不可欠である中、アウトリーチによる意識調査や、「水道サポーターワークショップ」による住民参加型の合意形成等の先進的取組は、住民に「伝わる」広報戦略を考える上でとても参考になった。
- 施設の更新・再構築を行うには、事業体が個々に行うよりも、広域化等、近隣の市町と連携を図りながら取り組むことが効率的な事業運営となるということ、それにはまず、情報共有化の場を持つことが大事であるということが良く分かった。
- 地域別の開催であり、共通の課題を抱えている場合も多く参考になった。
- 日常業務に追われ、水道事業の抱える問題、課題等を考えることが少ないため、意識を変える良い機会になったと思う。
- 身近なところで先進的なことを進めていることを知り、ためになった。
- 住民に対する水道事業の方向性について広報する重要性について考えさせられた。
- ここで確認できた先進事業体の事例が、今後の新水道ビジョンにおける課題や方策の検討の一助とすることができれば良いと思う。

## 2 懇談会（グループ形式）について

### 懇談会（グループ形式）の参加グループ



### 懇談会（グループ形式）は有意義であったか？



#### ▼主要な意見

##### 有意義だった

- 当企業団の構成団体の簡易水道担当者の話が聞けたのが有意義だった。
- これからの仕事の進め方や、委託の仕方、連携していく上での問題点等、おおいに役立った。
- 事業の規模や種別の垣根を越えて広域化を推進するには（特に事業体だけでは進まない場合）、都道府県の強力なリーダーシップが求められていることを痛感した。
- 企業団（3市町+企業団統合）設立までの苦労話を伺うことができ、有意義だった。
- 水道事業体のみならず、県の担当者を交えての懇談（しかも広域的に）は今まで経験がなかったので、各担当の広域化についての考えや、現在おかれている状態等を話し合う機会が得られた。このような機会を続けていくことが、ソフト面でのつながりになり、

広域化への足がかりになると思われる。

- 広域化の更なる拡大について参考となる部分があった。必要性はある程度感じているが、一歩が踏み出せない団体が多いと感じた。また、広域連携にまだ興味がないという団体も見られた。
- 隣県岩手中部の広域化の話しが印象的だった。時間は掛かったけれども、ボトムアップ型でやれることの意義を説明してもらった。
- 思った以上に議論が活発であった。広域化について、現時点では具体的な動きがなくても、各事業体ともいづれ考えなければならないものとの意識が根底にあるからではないかと感じた。
- 岩手県の担当者から、広域化へ関与していきたいとの考えを聞いて良かった。
- 水道事業に携わる者にとって一番大切なことはお客様に信頼されることであり、そのためには、お客様である住民との良好な関係づくりと連携が大切であると実感した。

#### 役に立たなかった

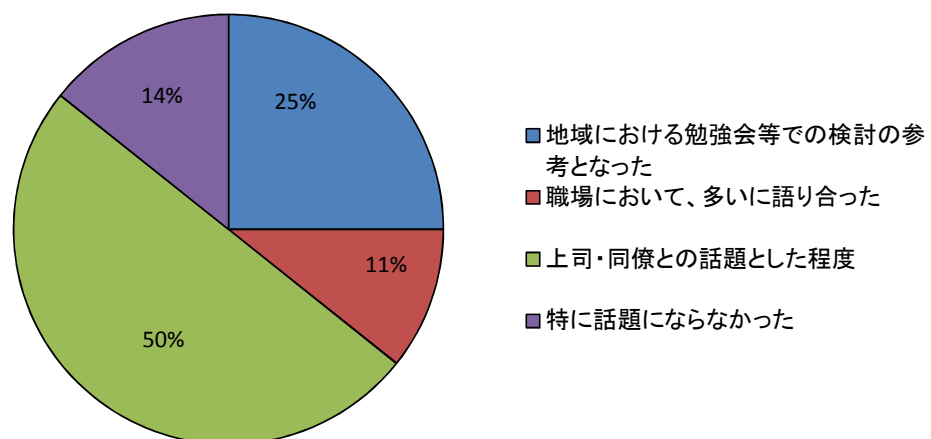
- テーマ（官民連携も視野に入れた広域的連携）が大きく、各人が何を話していいのかわからない状況にあったのではないかと感じた。

#### どちらともいえない

- 公営事業者の出席率が高く、民間事業者の現状や対応能力等について理解を深められなかった一方、公営事業者間では、大規模事業者や中小事業者どちらも出席していたため、各事業者における考え方や情報を共有することができた。
- 事前の準備があまりできなくて、発言の機会を持てなかった。
- 広域的連携は、県が音頭をとってくれれば話し合いがし易いのではないかと思った。
- 懇談会の時間が短く、他の事業者の考え方をもっと聞きたかった。

### 3 職場又は他市町村等への波及効果について

#### 懇談会の内容について、職場での話題又は他市町村との勉強会等での参考となったか？（複数回答有）



#### 4 今後の取り組みについて

- 企業団では、広報編集員制度があり、記事の執筆、紙面づくりへの助言をいただいている。今後は、広報紙に対する批判的な意見を積極的に出してもらい、改善に取り組んでいきたいと考えている。
- まだ新たな取り組みはないが、今後、広域化や連携についての話し合いを行う場を設定するなどし、水道事業の将来像を考えていきたいと思っている。
- 懇談会で出た意見を参考にしつつ、今後の新たな広域化に向け準備を進めていきたい。
- 当地域は全国でも最も人口減少率が高いにもかかわらず、県内水道の広域化へ向けた動きは鈍い。地域の水道事業事務・技術研究会を核に、水道の将来像について、同じ境遇にある隣接事業体と勉強会をはじめたいと考えている。
- 新水道ビジョンや懇談会の内容を踏まえて、水道ビジョンを改定する予定である。
- 今後、地域の水道企業団と連携していく中で、水質検査や日常点検、料金収納業務、メーターの検針業務などを一括して委託する方向になった。時期は未定だが、そのために来年度から同規格で委託する方向を決めていくようにしている。

#### 5 ご要望やご意見について

- 厚生労働省が想定しているような広域化、事業体間の連携に関する旗振りの役割を都道府県がもっと効果的に担えるような仕組みや制度について、協議、検討すべきではないか。
- それぞれの事業体が現状を把握し、互いに課題を持ち寄ることが発展的広域化の第1歩であるが、その問題意識を持つこと自体が難しいと思う。きっかけづくりが必要であり、それには国や都道府県が担う役割が大きいと思う。
- 各県で広域化に向けた体制等が違うと思うので、広域化に向けたアプローチの方法は、様々であることを国の方から発信していただけたらいいのではないか。
- 今後開催される他の地区の懇談会についても内容を共有してほしい。
- 各々の事業体の規模にあった事例があれば紹介してほしい。
- 参加者の数が県によってばらつきがあったので、もっと均等に参加できるように配慮してほしい。
- もう少し小さなグループ討議がしたいと思う。まだ当町からすればグループ自体が多い人数なので、6~7人くらいのグループでやれば、ざっくばらんに意見が飛び交うのかもしれない。
- 事例紹介については、ソフトの取り組みや理論的なものより、現実的な「更新事業」、「料金値上げ」、「広域化」を実現している、またはこれに直接的に繋がられる事例の紹介をしてほしい。
- 小規模な事業体こそ多数参加して意見交換や研修ができるような会を開催してほしい。
- 近隣水道事業体間で意見交換する機会が少ないようなので、水道の課題解決に向けた地域懇談会による水道事業体間の意見交換の場は、とても有意義と考えている。
- 水道事業を担当していても、水道ビジョンの理解が不足、または意識していない職員が多いと感じている。職員や関係者の意識を高めるために、この地域懇談会開催の意義は大きいと感じた。
- 懇談会終了後の懇親会で、先進事例の発表の講師の方や厚生労働省水道課の方等とゆっくりと話す機会があり、時間内では聞けないことを聞けた。また、時間内には業務の関係で参加できなかった方も懇親会に参加していただき、話しができたため、懇親会の設定は良かったと思う。
- 懇談会（グループ形式）では、階層別にするともっと発言が活発になるのではないか。